

学校関係者向け広報活動
－福岡県小学校社会科教育研修協議会北九州部会による海事産業見学会－

当協会は、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。特に教師・児童など学校関係者向けには積極的かつ地道な活動を継続しており、この一環として、小学校教師で構成される社会科研究会などを対象に、関連団体等とも連携し、海運関連施設の見学会等を実施しています。

今般、8月8日(火)に、例年同様九州海事産業人材育成協議会(事務局:国土交通省九州運輸局)および九州地区船員対策協議会と共催で、福岡県小学校社会科教育研修協議会北九州部会を対象に見学会を実施し、14名の小学校教師が参加しました。

当日は、まず新門司港に停泊中のフェリー「ひびき」に乗船し、車両甲板(車の駐車スペース)、操舵室などの説明を受けながら見学し、フェリーが旅客の輸送のみならず物流の一翼をも担っていることを改めて認識されたようでした。

次に、昭和初期に国際旅客ターミナルとして門司港に建てられた「旧大連航路上屋」を訪問し、当協会から外航海運の重要性(海運とわれわれの生活が密接な関係にあるなど)に関する講演を行った後、九州地区船員対策協議会からはセメント産業通じての内航海運の役割について講演が行われました。

その後、太刀浦地域の冷凍倉庫を見学し、濡れたタオルを振り回すとわずかの間に凍り付く -60°C の世界を体感していました。

最後に、太刀浦コンテナターミナルを訪問し、同ターミナルの概要説明を受けたのち、2隻のコンテナ船が接岸しているターミナル内をバスで移動しながら、ガントリークレーンによるコンテナの荷役作業を目の当たりして、作業の正確さとそのスピードに大変感動していました。



見学会を通じて、先生方に「海運」について認識していただき、授業で海運の重要性を児童と一緒に考えていただくことを期待するとともに、今後も積極的に学校関係者向けの広報活動に取り組んでまいります。

